

2018年度 筑波大学附属図書館 事業報告

次世代学習スペース整備検討～利用者ニーズへの対応を中心に

学習支援



ラーニングスクエア光景（中央図書館）

附属図書館では多様な利用者ニーズに対応するため、教職員で構成する次世代学習スペース整備検討タスクフォースを年5回開催し、6月には利用者ニーズアンケートを実施しました。アンケートでは797件の回答を得ています。その分析結果では、居場所としての快適性やPC環境の充実を求める要望が多く、学習スタイルや利用者の多様化に合わせた「静」と「動」の適切なゾーニングを求める意見が浮き彫りとなりました。さらに、分析内容とスタッフヒアリングの意見を参考に、10月より整備企画を検討し、次年度以降の学習スペース整備に向け、キャッチコピーとロードマップを作成しました。

障害のある利用者への資料電子化サービス～試行から本運用へ

学習支援



PDFを見ながらテキストデータを校正する様子

視覚障害やページめくりが困難な運動障害のある学生のために、昨年度に引き続き、DACセンターアクセシビリティ担当と連携し、図書や雑誌論文を利用可能なPDFやテキストデータにして提供するサービスを試行しました。OCRソフトを使い、紙の資料をスキャンして文字データを作成し、誤って変換された文字の校正や図表の説明を追加する作業を行います。作成したデータは学習管理システムmanabaを通じ、2018年度は、PDF 18件（図書9件、雑誌論文9件）、テキストデータ12件（図書4件、雑誌論文8件）を提供しました。2019年度からは、サービス体制を整え、本格的な運用を開始します。

医学図書館にラーニングcommonsを設置

学習支援



入口脇にはディスカッション可能なスペースを整備

医学図書館内の複数の場所にラーニングcommonsを整備しました。これらはスーパーグローバル大学創成支援事業の一環として、学生がより集中して学習できる環境を提供することを目的としています。

国家試験受験のための勉強をする学生が多いことを考慮し、「静かなグループ学習が期待されるエリア」、「声を出して議論して良いエリア」など異なったポリシーにより実現しています。

医学基本図書コーナーには、全学計算機端末4台を移設しました。これにより、禁帯出図書や雑誌を見ながらレポート作成等が可能です。端末は余裕のある机上配置となっています。

また、2階全学計算機サテライト内および1階集密書架裏側にもグループ学習ができる机を増設しました。



YOGA TALK & EXERCISE (6/21)

体育・芸術図書館のラーニング・コモンズ「ユリカ！」は、学習の場として学生に親しまれており、展示やイベントを行う空間としても多彩な催し物で利用者の関心を集めています。2018年度は、4月の展示「アンチ・ドーピングとは何か?」、11月の「バンド・デシネ作品及びグラフィック・シェイクスピア・コンペティション優秀作品展示」に加え、芸術系教員と共催の壁面マスキングテープアート「線による構成」の制作や、パネルを用いた平面構成作品の展示を実施しました。その他、授業やシンポジウムも行われ、6月開催の体育系教員共催イベント「YOGA TALK & EXERCISE」では、学内外から多くの参加者が集まり、大変好評でした。

「世界を変えよう基金」の支援による図書購入



「世界を変えよう基金」新着図書コーナー（中央図書館）

筑波大学「世界を変えよう基金」の支援により、経済分野の図書を購入しました。この基金は、国内外において社会・文化貢献活動を行う筑波大学生を支援することを目的として2015年12月に設立され、2017年からは附属図書館の図書購入も支援しています。この支援により購入される図書は、日本経済新聞書評欄で紹介された経済分野の図書から選定され、2019年3月までに155点の図書を利用に供しています。
(<https://futureship.sec.tsukuba.ac.jp/mdw/others/>)
とても好評で、新着書架に展示すると間もなく貸出されています。

講演会「オープンアクセスの今と未来」を開催



講演会ポスター

2月18日（月）附属図書館主催・オープンアクセスリポジトリ推進協会（JPCOAR）後援による講演会を開催しました。本講演会は、現在のオープンアクセスに係る取組みを俯瞰し、課題・論点等の見直しや確認を行い、本学における今後のオープンアクセスを推進するための取組みを考える目的で開催しています。講演会では、オープンアクセスの理念や粗悪学術雑誌に関する注意喚起、オープンアクセスを促進する新しいリポジトリシステム、オープンサイエンスをサポートする研究データ管理のトレーニングツール等について、本学図書館情報メディア系逸村裕教授のほか、国立情報学研究所から山地一禎教授、林正治特任助教、尾城孝一特任研究員をお招きして講演やパネルディスカッションが行われました。学内外から、研究者、図書館職員等89名の参加があり、活発な質疑応答、意見交換が行われ盛況のうちに終了しました。

「著作権法の一部改正に係る説明会」を開催



満席の筑波地区会場

著作権法の一部を改正する法律が成立したことを受け、第35条（学校その他の教育機関における複製等）の改正等、教育機関に影響を及ぼす内容について、12月21日（金）に説明会を開催しました。講師には、国立国会図書館関西館の南亮一アジア情報課長と、本学図書館情報メディア系の村井麻衣子准教授を招き、改正内容と教育・研究上の留意点を解説いただきました。教員や院生を中心とする125名の参加者で会場は満席となり、活発な質疑応答が交わされました。本学として、社会的規律を遵守し、円滑な教育・研究活動を行うため、関連の知識を深める機会となりました。配付資料は一部英訳も行き、つばりポジトリにおいて公開中です。
(<https://www.tulips.tsukuba.ac.jp/lib/ja/information/20181220-02>)



附属図書館内校費用コピー機の利用も対象

財務部と連携して2017年11月から試行開始した文献複写等サービスの全学共通経費化について、2018年10月までの1年間の試行内容を検証しました。

その結果、文献複写等サービスの依頼件数は上昇したものの当初予定の全学共通経費予算内に収まったため、2019年度以降、全学共通経費化を本実施することが決定しました。

これにより予算振替業務に係る業務が省力化されるとともに、教員は研究に必要な文献を容易な手続きで学内外から取り寄せることが可能となり利便性が向上しています。

新規購入の主な教育研究学術資料

研究支援



工業調査彙報



復刻版(左)と原本(右)

人文社会系コレクションとして『工業調査彙報』（復刻版）はじめ175点を購入しました。『工業調査彙報』は、大正から昭和戦前期にかけての日本経済の動向を知ることのできる第一級の資料群です。今まで原本を断片的に所蔵していましたが、復刻版の購入により広く利用することが可能となりました。

このほか、研究大学強化促進費補助金等の配分を受け、学術論文データベースWeb of Science Core Collection Emerging Sources Citation Indexのバックファイル（2005-2014）、2005年から継続して整備しているSpringer社の電子ブック2018年刊行分（Computer Science分野約1,100点及びBiomedical and Life Sciences分野約670点）を整備しました。

2018年度特別展「グローバルに挑む群像 - 幕末から明治へ」を開催

社会貢献



展示をご覧になる永田学長ご一行

10月29日から11月30日まで、中央図書館において人文社会系との共催による特別展を開催しました。本特別展は、幕末・維新时期から明治前半期を中心に、グローバルな世界に挑戦した人々の姿を附属図書館所蔵の貴重資料から取り上げ日本近代のあり方を考えていくもので、「明治150年」を記念する本学における取り組みの一つとして開催されました。

展示では、師範学校創設の地となった「昌平坂学問所」の資料、「幕末関係記録」や「長州藩士記録」などに取り上げ、全体では未公開の資料も含め49点の貴重資料を公開しました。

会期中には、展示を企画した本学教員による特別講演会およびギャラリートークも開催され、学内外から2,080名が訪れ貴重な資料を観覧しました。

狩野探幽筆「野外奏楽・猿曳図」の修復

社会貢献



修復の様子（修復工房にて 2019年1月撮影）

附属図書館で所蔵している狩野探幽筆「野外奏楽・猿曳図」は、1650-1660年頃に制作された草体の画風を示した六曲一双の屏風で、江戸前期狩野派の動向を知る貴重な資料です。当該資料は、各扇ともに破損状態が著しく保存と公開が困難な状況でしたが、公益財団法人出光文化福祉財団による美術品修復助成を受けて2017～2018年度に保存修復作業を実施しました。

2019年3月には、2年間にわたる本格解体修理が終了し、4月からは修復完成記念特別公開「筑波大学の至宝 狩野探幽の屏風絵」を開催する予定です。修復後の「野外奏楽・猿曳図」を展示し、本学の貴重な学術資料を広く一般公開いたします。



附属駒場中・高等学校SSHシリーズセミナー
「メディア虎の穴」講義の様子 (12/10)

附属高校各校へは2012年度よりこれまで、図書の貸出を中心にサービスを実施してきましたが、スーパーサイエンスハイスクールやスーパーグローバルハイスクールへの取り組みに準じ、さらに高度な学術情報の利用環境を提供するため、「高大連携図書館サービスパッケージ」を整備しました。生徒の高い知的要求に応えられるよう、各校担当教員と司書にヒアリングを行い、図書の貸出・レファレンス・文献複写の3つのサービスを基本とし、各校のニーズに合わせた要望にも対応できるようにしました。これにより、附属図書館を有効に活用した、各校での学習成果が期待されます。今後、さらに連携を進め、サービスの定着を目指します。

学外者貸出利用証Web申込開始

社会貢献

学外者貸出利用証 (サンプル)

筑波大学附属図書館は、「開かれた大学」の図書館として学外者への公開を積極的に進め、学外者貸出利用証の発行件数も順調に増加してきましたが、2017年度は減少しており、要望の多い時間外の申込受付などにも対応できていませんでした。学外者の図書館利用サービスの拡充を図るため、貸出冊数を3冊から6冊に増加するとともに、必要最小限の経費を一般学外者からは受益者負担（1年間 新規1,100円 更新500円）として求め、申込み・決済サービスを用いたWeb申込サービスの試行を6月から開始しました。2019年3月までの10か月間の申込件数は1,195件で、2017年の実績から18%増となっており、おおむね好評です。

新Tulips Search – 速い・使いやすい検索インターフェイスの開発

情報発信



新Tulips Search

附属図書館が2014年から提供する文献検索ツール「Tulips Search」は、国内でも先導的なWebスケールディスクバリサービス（以下、ディスクバリサービス）として導入されました。2019年3月、図書館システムの更新に合わせ、より使いやすいものとするべく株式会社カール、株式会社リコーの2社と共同で新「Tulips Search」を開発、公開しました。開発の主眼を速度・網羅性・本文への到達可能性に置き、ディスクバリサービスの原点に立ち戻るコンセプトとなりました。ディスクバリサービスの導入事例が国内でも増える中、新「Tulips Search」はディスクバリサービスの“再発見”をもたらすとも言えます。このツールを用いて、利用者がより質の高い情報探索を行えるようになることが期待されます。

「新日本古典籍総合データベース」への本学所蔵資料画像提供と公開

情報発信



本学所蔵「虫譜図説」のデジタル画像

本学は、国文学研究資料館が中心となって行われる「日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク構築計画」（2014～2023年度）に拠点連携大学として参加し、歴史的典籍データベース構築にかかる資料の画像を提供しています。「新日本古典籍総合データベース」は、日本古典籍ポータルサイトとして、国内外のさまざまな機関が所蔵する古典籍のデジタル画像を利用することができます。（<https://kotenseki.nijl.ac.jp/>）附属図書館では、外部資金にて2016～2018年度に医学・理学・産業分野等の古典籍を中心に1,274点の電子画像データを作成しました。現在、データベースでは171点の画像が公開されていますが、作成された画像については順次公開される予定です。